FUJITSU

ミドルウェア導入事例

バンダイナムコホールディングス 様

システム基盤の仮想化・統合による統一を機にジョブスケジュールの変更作業工数を約1/6に削減

－ジョブスケジューリングによる業務の自動運転「FUJITSU Software Systemwalker Operation Manager」－

課　題

●事業会社毎に構築したシステムを統合したい
●ジョブ管理や監視を含めて運用管理を連携したい
●ジョブのスケジュール変更にかかる負荷を軽減したい

効　果

●プライベートクラウドに統合してTCO削減
●統合運用管理ソフトによる連携で運用品質向上
●変更作業の効率化で工数を約1/6に削減

導入の背景

基幹システムの設備・運用の重複やジョブ管理の運用負荷増加に悩む

2005年にバンダイとナムコが経営を統合、バンダイナムコグループは玩具などを手がける「トイホビー」、家庭用ゲームソフト開発などを行う「コンテンツ」、アミューズメント施設の企画・運営などに携わる「アミューズメント施設」という3つの戦略ビジネスユニット、および関連事業会社で構成される。その中で、グループの事業戦略や事業活動の管理を行っているのがバンダイナムコホールディングスだ。

同社は、グループ内の会計や人事などの共通業務を2008年にシェアードサービス化し、業務効率化やコスト削減を進めている。そして、2009年にICTインフラを統一する中期IT戦略を策定した。

従来、グループ内では事業会社毎に異なる基幹システムを構築・運営しており、様々な課題を抱えていた。株式会社バンダイナムコホールディングス 情報システム部 システム管理チーム マネージャー 田辺 正隆 氏は「各事業会社で運用業務やシステムに関わる設備などが重複したり、異なるシステム間を連携するための作業が発生したりしていたのです」と振り返る。また、システム毎にハードウェアの保守切れが発生し、その都度対応作業にも悩まされていた。

運用面でも課題に直面していた。同チーム リーダー 長沼 正人 氏は「これまでジョブ管理をはじめとする運用管理ソフトウェアは、各事業会社で異なる製品を用いていました。それゆえ、運用や監視の一元管理ができず、高い負荷がかかっていました」と話す。

なかでもジョブ管理は、スケジュールを設定する作業の負荷が高く毎回苦慮していた。同チーム 三谷 繁春 氏は

株式会社バンダイナムコホールディングス
情報システム部
システム管理チーム
マネージャー
田辺 正隆 氏

株式会社バンダイナムコホールディングス
情報システム部
システム管理チーム
リーダー
長沼 正人 氏

株式会社バンダイナムコホールディングス
情報システム部
システム管理チーム
三谷 繁春 氏

ユーザープロフィール

株式会社バンダイナムコホールディングス

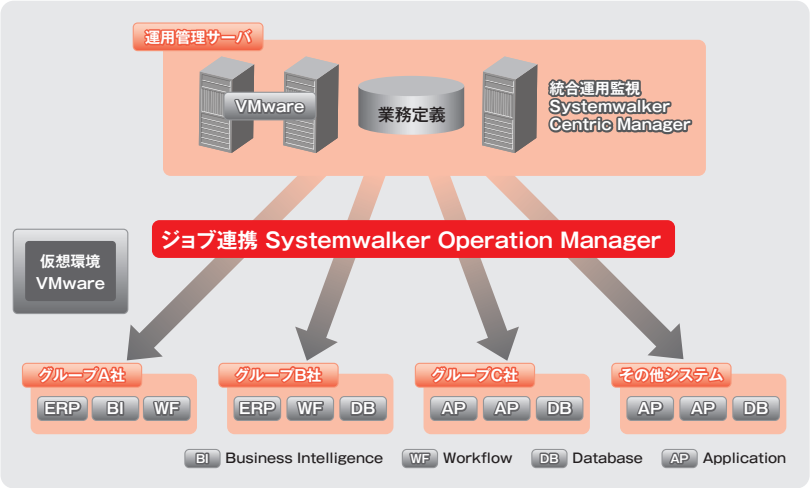
本社所在地：東京都品川区東品川4-5-15
設　　立：2005年9月29日
資　本　金：100億円
取締役社長：石川 祝男
グループ従業員数：7013名（連結対象会社）
ホームページ：http://www.bandainamco.co.jp/

事業概要
バンダイナムコグループの中長期経営戦略の立案・遂行、およびグループ事業会社の事業戦略実行支援・事業活動の管理。

shaping tomorrow with you
社会とお客様の豊かな未来のために

「ジョブのスケジュール変更は、ジョブに応じて毎月または四半期毎に行なっています。従来のジョブ管理ソフトウェアはジョブを実行する日毎に設定が必要であり、多くの時間と手間を要していました」と打ち明ける。

システム概要図



導入のポイント

富士通の支援のもとに ICTインフラを集約・統一

バンダイナムコホールディングスは、TCO削減およびガバナンス強化を目的に、ICTインフラをグループ主要会社で集約・統一を図ることで、それらの課題解決にも着手した。

ICTインフラを集約・統一していくパートナーとして、同社が選んだのが富士通である。

「ICTインフラの集約を一緒に推進するパートナーが必要でした。富士通は、製品や事業部の垣根にとらわれず、我々の要望をワンストップで受け止め、対応してくれました。ユーザーのことを考えた現場の対応力を高く評価しました。加えて、リーズナブルなコストや豊富な実績も評価しました」（田辺氏）

同社は設備の重複やシステム間連携の手間、ハードウェアの保守切れといった課題を解消すべく、ICTインフラを全て仮想環境から提供するプライベートクラウドによる共通システム基盤を構築、主要な事業会社のERPや業務システムの統合を実現した。

システム概要

ジョブ管理と監視が連動した 統合運用管理を実現

共通システム基盤の運用管理ソフトウェアは、Systemwalkerシリーズに統合した。統合運用監視のSystemwalker Centric Manager（システムウォーカー セントリック マネージャー）とジョブ管理を行うSystemwalker Operation Managerなどを連携させて、ジョブ管理と監視が連動した統合運用管理を実現した。

ジョブ管理は、以前ほかのジョブ管理ソフトウェアで実行していたジョブをSystemwalker Operation Manager に移行した。

「一部のジョブは互換性の問題で手間取ったものの、富士通SEのサポートのおかげで、短期間で移行できました」（長沼氏）

共通システム基盤は2011年11月にカットオーバーし、2012年4月には11社の国内事業会社で稼働を開始した。

導入効果と今後の展開

インフラ集約で設備重複等の課題を解決 ジョブ変更作業の大幅な効率化も

バンダイナムコホールディングスはICTインフラの集約・統一によって、従来からの課題を解決できた。

「共通システム基盤にすることで、基幹システムにおける設備や運用業務の重複が解消されました。なおかつ、異なるシステム間の連携作業も不要になり、TCO削減や運用の効率化が図れました。さらにシステム毎に発生していたハードウェアの保守切れの対応に追われなくなるなど、従来の課題から解放されました」（田辺氏）

運用管理の面では、「運用管理が統合され、監視と連動したジョブ管理が可能となったことにより、運用品質が向上しました。あわせて、運用の効率化やコスト削減も図れました」と長沼氏は成果を述べる。

ジョブのスケジュール変更作業の生産性向上も果たしている。Systemwalker Operation Manager は基本のジョブを設定した後に、実行しない日を指定することができるなど、スケジューリング管理の機能が使いやすく、変更作業を大幅に効率化することができた。

「変更作業にかかる時間が、年間で48時間が8時間となり、工数を約1/6に短縮できました」（三谷氏）

今後は今回整備した共通システム基盤を、海外を含むグループのほかの事業会社へ展開する予定だ。さらに田辺氏は「情報系システムの一部にパブリッククラウドを利用するなど、プライベートクラウド以外の手段も適材適所で活用し、グループのICTを全体最適化していきます」と構想を話す。

これからもICTを活かしてグループの競争力強化を加速するバンダイナムコホールディングス。その取り組みを富士通が支え続ける。

お問い合わせ先　富士通コンタクトライン　0120-933-200　受付時間 9:00 ～ 17:30（土・日・祝日を除く）
富士通株式会社　〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2　汐留シティセンター

●このカタログには、環境に配慮した用紙、植物油インキ、有害な廃液を出さない水なし印刷方式を採用しています。

CZ5236-2013年3月M